

第96号

居合道だより



1

はじめに



はじめに



梅雨開けが待たれるこの頃、七夕祭りもうすぐだ。願いを書き込んだ七色の短冊を笹竹に結びつけ、その周りを子供たちがはしゃぎながら走り回っている。低い空には梅雨明け間近の七色の虹が架かっている。そんな日本的な風景が目に浮かんでくる。

昨年初めて挑戦した紫陽花の挿し木が20数本も根を張り、七枚、八枚と青葉が繁

り始めている。来年の今頃は色とりどりの花を咲かせてくれるだろうか。と、「七」づくめで始まったが、人間には「無くて七癖」というものがある。

普段の生活の中でも、立ち居振る舞いや何気ない仕草に、その人独特の形や動きがある。

居合では特に斬った時の姿勢等で首がかしぐ人、あごが上がる人、右肩が出る人、

そっくり返る人、前屈みになる人等、色々である。

もちろん人間は元々真っ直ぐかつ左右対

少しばかりのアンバランスはその人の
度を過ぎるとやはり悪癖である。

し、本人も直す努力をしているはず

しかしなかなか直らない。それな

右にかしいでいると注意すると

かし真っ直ぐにしようとする

はならないのである。

見た。

口に刈り取り、一冬よく乾燥さ

うように削りながら整えていく

竹だから当然節の部分で曲が

ぐには飛ばない。一番単純な

真っ直ぐにするために、火

と、竹の繊維から油が滲み出

曲がった部分に「タメ木」を

る。

タメ木を使い左に曲げながら扱いていく。冷めたらまた熱して左に曲げて扱う。燃え移らないように折れないように細心の注意を払いながら何度もこの作業を繰り返す。元に戻ろうとする繊維の力を、熱とタメ木で曲げながら扱い、冷めて固まった位置がちょうど真っ直ぐになるようにするのである。

すなわち右に曲がった竹は、熱しながら真っ直ぐではなく左に曲げていくのである。

修業においては、何度も何度もタメ木で扱いていくのが稽古であり、柔らかくする熱、

称の体つきにはなっていない。

持ち味となって風格さえも出てくるが、

当然指導者は指摘しているだろう

る。

はしているのだろうが。

人は真っ直ぐにしようとする。し

だけでは決して真っ直ぐに

ユーチューブで弓矢の作り方を

自然の材料、しのめ竹(矢竹)を秋

せてから4本一組で太さと長さが揃

のである。

っている。矢は真っ直ぐでないと真っ直

真っ直ぐな形が矢の生命線である。

入れといって竹を炭火の炉で熱する

てきて柔らかくなる。それを一節一節

使ってゆがみを矯正していくのであ

節から右に曲がった箇所は熱して



炭の炎は自分自身の心奥に燃えたぎる、上達したいという熱い情熱以外なにものでもない
のである。

もうひとつ、稽古の時にだけ気をつけても直るはずがない。剣聖武蔵が言ったように
「常の構えを兵法の構えとし、常の動きを兵法の動きとなす。」心構えが肝要であろう。

「直心是道場」なり。



主な出来事



6月8日(日) 福岡県居合道講習会 アクション福岡

錬士、教士予備審査会

6月15日(日) 第47回福岡県居合道大会 福岡武道館

級審査会

＊県居合道大会の成績表は[ホームページを参照](#)のこと。

7・8月の予定



7月11日(金) 居合道六・七段審査会 岡山市・桃太郎アリーナ

7月12日(土)～13日(日)

居合道地区講習会

同 上

8月9日(土)～10日(日)

居合道講習会

福岡武道館

***福岡県では初めての全剣連派遣講師 居合道委員長 河口俊彦先生による講習会です。
会員多数の参加をお願いします。**

居合道だより 第96号



© 公益社団法人 福岡県剣道連盟

福岡県剣道連盟 居合道部 2014.07.01発刊 第96号 居合道だより

Copyright (C) 2014 [福岡県剣道連盟](#) [居合道部](#) All Rights Reserved.